

あろま

2010.2.22.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

2月例会 「生活班」をめぐって

～「技術」と「集団」ということとも関わって～

2月20日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック2月例会が開催されました。水本さんの4年生ハンドボールの授業の報告が予定されていましたが、都合により水本さんが参加できなかったため、参加者それぞれが近況を報告し合いました。その中で、今行っている体育の実践について、生活班をどのように作り、どのようなはたらきかけをしているかなどについて話し合われました。参加者は5人でした。

ペースランニングの実践

Aさんの学校では学芸会が近づいていて、その練習のために体育館での体育ができなくなってしまっています。校庭は中学校が優先的に使っているの、体育専科の剛力さんとしては、どこで体育をやったらよいのかと、とても困っていたそうです。そこで考えたのが、以前にも取り組んだ「ペースランニング」です。少し先には学校の近くの井の頭公園で行われる「駅伝大会」もあるので、それに向けての学習という意味もあります。

往復200mの渡り廊下を使ってのペースランニングです。ラップタイムが表示されるストップウォッチを12個用意できたので、3人一組になって、走る人、タイムを計る人、記録する人に分かれて、順番にやっています。「長く、楽に走る」「がんばらない」ことを大切にして取り組んでいます。渡り廊下の往復で走っているの、すれちがった子同士がハイタッチをして励まし合っているということでした。走るのが苦手な子も、ペースランニングを喜んでやっているそうです。距離も2000mまで伸びてきているということでした。

3年生 サッカーの実践

Bさんはサッカーの実践をしています。地域のサッカークラブで練習していてサッカーの得意な子と、サッカー経験のない子との技術差がとても大きいという学級の実情があります。Bさんは、サッカーの好きな子、得意の子をリーダーにして、6つの班をつくりました。そしてまずサッカーのゲームをしてみます。サッカーの得意なリーダーの子をゴールキーパーにして、「自分のチームの様子をよく見て、指示を出してね。」と言っておきます。ゲームが始まると「もっと上がれ」とか「しっかり動け」とかリーダーの子たちは声をかけますが、言われてもどう動いていい

かわかりません。サッカーのことをよく知らない子が多いということがリーダーの子たちにもわかります。

それで、サッカーのルールなどをみんなで学習していく、その中にゲームも入れながら進めていくということを合意して、学習を進めてきているということでした。

「全員シュート」をどう考えるか

Cさんの学校で、体育の実践経験も豊富な先生がバスケットボールの授業をされたそうです。そのクラスにはバスケットボールでもうまく動けずに、その先生に言わせれば「絶対にシュートなんかムリ」という子がいるということです。その先生の授業は「とてもよかった」と絶賛されていたということですが、Cさんとしては「ボールを触ってない子もいたのに…」と思ったり、そんなふうに「シュートなんかムリ」と決め付けるのはいかながなものかと感じていたので、「どうなんでしょうね?」とみんなに問いかけました。

話されたことのひとつは、バスケットボールの特質はひとり残さず誰にも教えたい、2:0を誰にもわかりできるようにしたい…ということでした。

もう一つは、みんなの思いを大切にしたい目標づくりのことで、事前のアンケートなどでみんなの（特に苦手な子、きらいな子の）思いを大切に目標づくりをします。そして、バスケットボールのいちばんおもしろいところ「シュート」の喜びを誰もが味わいたいということで「全員シュート」の目標が立てられたりします。その時に、普通にやっていたらとてもシュートなんかムリと思える子のことが話し合われることもあるでしょう。ではその子もシュートできるようにするには、どうしても動きがわからないなら誰かがついていっしょに動くようにするとか、シュートがリングに届かないのならボードまで届けばいいことにするとか、そんなことをみんなで考えていくことも大切なのではないかという話も出ました。

「生活班」をどう考える

体育専科のAさんは、全生研に関わっていて集団づくりの取り組みをしている先生のクラスと、そうではないクラスとでは、体育に来たときの学習の様子が全然ちがうと感じています。そんなこともあって、「技術」と「集団」について課題意識をもっています。山内さんが「技術指導の系統と学習集団の系統」を提案していることにも触れながら、体育のグループを生活班にする人も多いけれど、公立の学校では生活班でどのような活動をしたり、教師はどんな指導をしたりしているのかを、みんなに問いかけました。

子どもたちの年齢や、クラスの子どもたちの様子に応じてさまざまな取り組みをしているようです。「学校は楽しいところでなくてはいけない。そのためにクラスが楽しくなければいけない。そのためには班が楽しくなければいけない。」と言って、班づくり・集団づくりの目標をしっかりとつようにしたり、「班長は班をまとめられる人、先生の話をしっかりみんなに伝えられる人、生活のめんどろも見られる人」と班長の役割をはっきりさせた上で班長を決めたり、「班長の言うことは先生の言うことだと思って、絶対にきかなくてはいけない。でも間違ったことを言う時にはちゃんと教えなくてはいけない。」と言って、班長と班のメンバーとの関係をわかるようにしたりと、いろいろな指導をしているようです。

Cさんは「クラスの休みがちで生活に課題をもっている子がいるのだけれど、同じ班の子が、『〇〇ちゃんのこと、家へ行ってどんなようすかみてくるよ』と言って、その子のことを気にかけ行動してくれたら、休みがちな子も、もっと変わっていったかもしれない。そんな生活班にできるといい。」と言っていました。

参加された方の感想から

みんながよく話せてよかったです。体育の授業というよりは、学級づくり、それも集団づくりの話が中心でした。

自分を出せない、集団とつながれない、よく耳にするのがコミュニケーション力です。様々な苦手をもった子ども集団、これをどうやってつながり合わせられるか。担任にとっての一番の悩みです。同時に一番のおもしろい仕事なのかもしれません。

それができやすいのが体育という学習かもしれません。人とのつながり方、うまくするための道すじ、これがつかみやすいのが体育の学習だと思っています。

今年度のまとめをむかえる今、その成果と「課題が見えてくるはず。

3月例会でも続けて学ばせてもらいたいと思っています
(Bさん)

・支援が必要な子、なかなかうまくいかない子も含め、「クラスみんなで成長しよう」という意識を子どもたちにもたせるためには、やっぱり子どもたちとじっくり対話することが大切なんだと思った。

・子どもたち同士の関係を、生活の中にまで広がられるかが、自分の課題の一つだと思った。子どもたちが仲間の生活まで入り込んでいくような関係づくりができるようになっていたらな…と思う。

(Cさん)

今日は、授業づくりや学級づくりに必要な生活班について、様々な話を聞いたのでよかったです。

全員が自分の役割をもち、また自分の個性を活かせる生活班をつくりたいと思いました。

(Eさん)

日々の学びの中で、子どもたちはどのような力を身につけているのかについて、深く考えることができました。いろいろな子どもが一つの場を形成する生活班や学習班、学習集団や生活集団は、なかなか一筋縄ではいきませんが、困った時がチャンスで、子どもと共に考えて、一歩前進させることが必要なことを再確認しました。集団には核が必要で、そこをしっかり育てることも大切ですね。(Aさん)

水本さんのハンドボールの授業報告は次回の楽しみにすることにします。

今回は、技術と集団の関係をどう考えるかの問題提起があり、それに対して日ごろクラスでどのような集団づくりをしているのかの具体的な話をそれぞれの方が話してくださって、勉強になりました。

Cさんが言ったように、学校を休んだ子に「私たちが家に行ってみるよ」と自発的に行動できるような集団づくりができるといいと思いました。(Dさん)

西多摩ブロック3月例会のご案内!

《私が求めてきたもの、実践を通して》

日時 3月6日(土) pm1:00~

会場 あきる野市屋城小 TEL042-558-1128 (渡邊)

3月は年度のまとめ、子どもたちと、何をどう学び、どんな力が育てられたのか。この一年間の実践を振り返りながら、成果と課題を!



「春の研究集会」のご案内!

- 1 日時 3月20日(土) 午後 1時00分より → 開会 あきる野市立屋城小学校
3月21日(日) 午後12時00分 → 閉会 八王子市立上川口小学校

2 場所 研究会場 内容

1日目 あきる野市立屋城小学校 TEL042-558-1129 (渡邊)

①30周年を迎えて 報告: 渡邊 光雄氏

②記念講演 講師: 堀江 邦昭氏

五日市ファインプラザ・プール(予定) *車移動します。

③ドル平の研究。今日的到達点を実技で検証する提案

水泳実技研修 講師: 荒木 豊氏 平田 和孝氏

※宿泊会場 「たつみ」 *屋城小近く TEL042-559-1617

④西多摩ブロックの研究の足跡=全国への発信「井上提案の実践者のコメント」

提案者: 井上 佳昭氏

⑤その後、宿泊会場にて、交流会へ.....

2日目 八王子市立上川口小学校 TEL042-654-4403 (井上) *翌日 am9:00~

⑥「マット・跳び箱・鉄棒について」実技講習

~なぜ、そうすると、うまくいくのか! 講師: 山内 基広氏

- 4 参加費 2日参加費 → プール費用 + 資料代 + 宿泊・交流会 で 10,000 円
通い2日参加 → プール費用 + 資料代 で 1,500 円
夕食・交流会参加 で 4,500 円
1日参加費 → プール費用 + 資料代 で 1,000 円

5 問い合わせ先 渡辺光雄 TEL自 042-552-1631

申し込み → 3月8日(月)までに! メールアドレス watax2@t-net.ne.jp